



生みの親といっしょに  
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして  
わたしを 見つめて  
わたしを 聞いて  
わたしを 呼んで

**【私も怒らない子育てをしたい】  
～子どもの”体・心・脳”を傷つけない子に育てるために～**

『「早く起きなさい」「着替えなさい」「いつまで食べているの」「学校の用意は?」「宿題はやっているの?」  
と毎朝、毎夕、顔を合わせればこれでもかというほど、口うるさく言ってしまう。  
言わずに本人に任せようと思っても、堪えられるのはほんの数十分。  
何も言わなければ生活が回らない、食事にもならないとやっぱり声をかけてしまうのです。』

過日、柏市内の病院の待合室で偶然手にした本の中で  
子育てのママたちの悲痛な心の声が聞こえてきました。  
私はこれを読んで「子どもの脳を傷つける親たち」(友田明美、NHK出版新書)を思い出しました。  
このように子育てのイライラ感や不安感から  
「子どもたちを叱り、叩いてしまうこと、子どもの前で繰り広げられる激しい夫婦喧嘩も  
マル・トリートメント(不適切な養育)と見なします。日々、子どもと接する中で、  
こうしたマル・トリートメントがまったくないという家庭など存在しないでしょう」とまで言っているのです。  
また「これまで、学習意欲の低下や非行、うつ病や摂食障害、統合失調症などの精神疾患は、  
主に生来的な要因がもとで起こると考えられてきました。しかし、脳科学の研究が進むにつれ、  
子ども時代に受けたマル・トリートメントが脳に悪影響を及ぼし、結果、こうした症状が出現、  
若しくは悪化することが明らかになってきています。  
社会に適応しづらい青少年や成人が生まれる背景には、  
子ども時代に受けたマル・トリートメントがあったのです」と2017年7月に書いているのです。

改めて私たちは子どもたちを守るために、この地域を守るために、  
この社会を住み良くするために、この国の安心、安全と子どもたちに  
希望あふれる未来を届けるためにも私たちの役割を再確認しなければなりません。

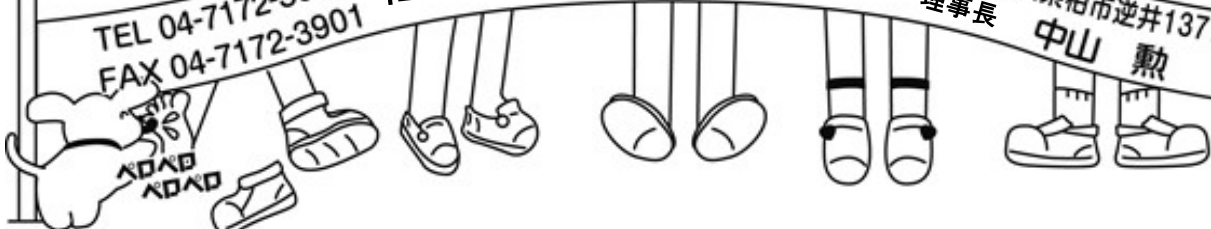


笑ったか ずー 一番 だっこされたか ずー 一番 やさしくされたか ずー 一番  
遊んだか ずー 一番 でかけたか ずー 一番 チャレンジしたか ずー 一番



E-mail [doushinkai@doushinkai.jp](mailto:doushinkai@doushinkai.jp) URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939 FAX 04-7172-3901 **社会福祉法人 童心会** 〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1  
理事長 **中山 勲**



それは～子どもの”体・心・脳”を傷つけない子を育てるために～何をすべきか！ということです。  
なぜなら「脳が最も育つ時期は、誕生後最初の2年間です。生後1ヶ月後、赤ちゃんの脳の大きさは大人の1/3に過ぎませんが、生後1年までに一気に育って大人の72%、2歳までに83%になります。でも脳が成長しきれない状態で生まれ、生後も成長のために一定期間の経験を要するということが自体、進化がもたらした最高の贈り物のひとつです。脳が作り上げられる時期に、  
「人間が有する比類なき知性、想像力、そして生産性中心になるのがこの時期です。」  
という脳発達科学の定説があります。

改めて私たち(社福)童心会の”学びと教えの心得”を思い出して下さい。  
ばら組(0歳児)さんの時代から五感を通して学びをはじめます。

・見て	倣い	観せて	学び
・聞いて	考え	聴かせて	習う
・触れて	知って	触って	記憶する

そして仲間たちやお兄さん先生、お姉さん先生、保育者仲間たちの称賛や励ましの中で身につけた力をママやパパ、家族の人たちに伝えられなければならないのです。

ひとりで	できる	ひとりで	できた
みんなと	できる	みんなと	できた
人のために	できる	人のために	できた
助けあって	できる	助けあって	できた

改めて振り返ってみて下さい。私たち(社福)童心会の「保育から人間学と人間科学に基づく人間教育」に変わった大きな理由の1つは「子どもの24時間の生活時間の共有」からでした。

その道しるべは「Well-being 幸せになろうね！幸せになろうよ！」から始まりました。  
そのために何をすべきなのか、を私たちは怠っていたような気がするのです。

家で親や保護者に叱られない良い子にすれば

「子どもの”体・心・脳”を傷つけない子育て」を共有できるはずですが。

なのに親や保護者や子育て仲間たちが育児で困っていることなど調査すらしてこなかったような気がします。  
「幼児期までに身につけたい生活力はこれ！」を調べてみました。

1位 早寝、早起き	4位 保育園、幼稚園に行く準備
2位 好き嫌いをなくす	5位 保育園、幼稚園から帰ったあとの片付けetc.
3位 おもちゃの片付け	

どのようにすればこれからの問題を解決できるのでしょうか？

良い子になれば家でほめられ、地域でも挨拶名人と言われ、家やお店などでも履き物を片付けられる”ほめられ上手”な子どもたちになれるはずなのです。  
すべからくは、人間教育を科学することから始まり、人間学的にも自敬・自尊心を高めながら、お互いの人格・人権・存在を認められる人間社会を共有することができるのでしょうか。

”こどもまんなか社会”とはこのような当たり前のことを言うのです。

そして、ひとりで 生きる、みんなと 生きる、人のために 生きる、助けあって 生きる  
”協働・共生社会”とはこのような社会を創ることなのです。

令和5年 9月 吉日  
社会福祉法人 童心会  
理事長 中山 勲

※ 童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。  
理事長の部屋【<http://doushinkai.jp/message/>】